「樹氷復活県民会議WT（第2回　播種作業）」が開催されました

令和5年6月14日（水）に、山形市の蔵王国有林で「樹氷復活県民会議ワークングチーム」の第2回会合が開催され、参加者がオオシラビソの種子を播く作業を行いました。

「樹氷復活県民会議」は、令和5年3月13日に、蔵王連峰の特徴的な植生であるオオシラビソ林を再生し、ひいては県民の宝である樹氷の景観を復活させることを目的としており、「技術検討」と「情報発信・次世代継承」の2つのワーキングチーム（WT）が設置されて当署はオブザーバーとして参画しています。

今回は前回に続いて2WTが合同で開催され、オオシラビソ林再生に向けた実践的活動として、県民会議が国有林に用意された「圃場」に、これまでに着果した球果を採取・選別して山形県森林研究研修センターで保存していたオオシラビソの種子800粒を8つの区画に播きました。

これまでの取組から得られた知見では、播いた種子は、そのままだとネズミに食べられてしまうことがわかっているため、播種後に金網をかぶせて保護しました。また、これまでに播いた種子の経過を見ると、およそ6～7年で十数センチメートルの高さに成長することが期待され、ゆくゆくは被害跡地への移植が予定されます。

当日の作業の合間には、当署に対してもWTのメンバーから、これまでの再生対策への取組等について熱心な質問をいただき、厳しい環境下でのオオシラビソの成長が非常にゆっくりであること等についてご理解をいただきました。報道機関の方も多く参加され、20キロほどの重量にもなるという撮影機材を担いで山道を現地まで登られ、当日のニュースで情報を発信していただきました。

引き続き、県民会議と連携しながら、樹氷をかたちづくるオオシラビソ林の再生に取り組んでまいります。